保護司会連絡協議会会長賞

保護司さんの役割り

堺市立　北八下小学校　六年
藤　本　　義　道

社会を明るくする運動を行う上で、保護司と言われる立場の人がいることを知りました。保護司とは、犯罪や非行をした人たちが再び罪を犯すことがないよう、その立ち直りを地域で支える民間ボランティアです。保護司とは犯罪をしてしまった人や非行少年の更生や社会復帰をサポートする資格です。社会的に非常に重要な役割を担っています。保護司は国家公務員として知られていますが、職務を続けるために必要な費用以外は支給されないことが特ちょうです。ボランティアとして活動する保護司は、世界でも珍しいといわれています。そんな、世界でもまれな制度である保護司ですが、保護司の歴史は明治二十一年、一八八八年から始まっており、昔から必要とされている資格の一つなのです。法務大臣からのたのみを受け、全国で約四万六千人が保護司として活動しています。

ぼくは保護司を調べる中で疑問に思うことがありました。それは、保護司は職務を続けるために必要な費用以外は支給されないのに保護司になっているということです。ぼくは、低学年のころにいじめられていました。コチョコチョがきくから面白いといわれてコチョコチョされたり、筆箱をとられて、かくされてしばらく返してくれなかったり、また、ぼくの苦手な虫などを見せられたりいろんなことをされました。やられた時の気持ちはすごくくやしかったです。憎かったです。なのに、どうしてこんな憎いようなことをした人を立ち直らせるボランティアをするのかがすごく疑問に思いました。また、二〇二四年六月二十六日には、保護司の殺害事件もありました。それによって保護司が減ったそうです。ですが、まだ約四万六千人も保護司として活動しているのです。それで、どうして命がけで危険な仕事をボランティアでできるのだろうと思いました。ですが、保護司はどんな仕事か調べているうちにこんなことを言っている人がいました。「他の人にはこのような思いをさせたくない。」と。ぼくには、憎しみの気持ちしかありませんでした。しかし、これから他の人も同じ気持ちをしてしまうかもしれないと思って、お金もなにも関係なくその人が二度とそんないじめをしないようにぼくが気づかせられるように

したいと思いました。

今までぼくは、いじめられたことはいろいろありました。ですが、それによってぼくができることもあるのではないかと思いました。ぼくは、自分がした悔しい思いや憎しみがあるけど、した人は楽しいと思っていて、ぼく以外にもいやな思いをさせた人がいるかもしれません。なので、これ以上他の人にそんな思いをさせないように、自分がいじめをされる気持ちや悔しい気持ちをその人に伝えたいと思います。伝えて、いじめをされるのがどんなに悔しくて、悲しいことかを分からせて、もうそんな思いを他の人にさせないようにしたいと思いました。まさにそれが保護司だと思います。

ぼくは、保護司のようにそれをしないようその人を立ち直らせることが社会を明るくする運動の一つだと考えます。